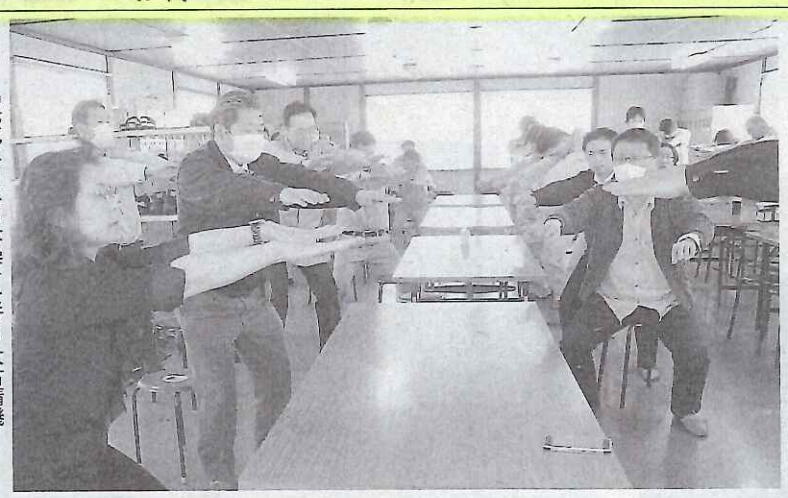
読売新聞掲載 2017年3月14日

読売新聞 （第3種郵便物認可）

健康経営 2社優良認定

禁煙、運動……社員の取り組み後押し

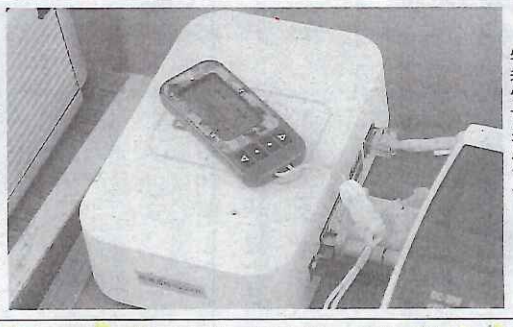
従業員の健康づくりを後押しする健康経営を実践する企業が県内でも増え始めた。将来の労働人口減少が見込まれる中、健康な状態で長く仕事を続けてもらうのが狙いで、先月、県内の中小企業2社が医療費抑制の取り組みを進める「日本健康会議」の「健康経営優良法人」に認定された。



「元気ニコニコ体操」を行う大古精機の社員たち（9日、さくら市氏家で）

認定を受けたさくら市の精密部品製造「大古精機」は、平日の昼休み後、県が推奨する「元気ニコニコ体操」を全社員で行っている。社内放送の音声に合わせて、屈伸の姿勢で両手を前に伸ばしたり首を手で押して曲げたりする約10の動作を5分間、繰り返した。

同社は昨年、社員の健康増進に向けた取り組みを行う社内委員会を設置した。約50人の社員のうち喫煙者が20人近かったため、禁煙外来の初診費用を会社が負担し、社内にニコチンを含んだガムやパッチなど禁煙グッズを置き、無料で利用できるようにしたほか、勤務中の喫煙の時間帯制限も設けた。これまでに5人が禁煙に取り組むようになったという。



スキットに置かれている歩数計の測定装置（8日、宇都宮市清住で）

大古秀子社長は「社員たちは1日・1人単位の精密な作業を行い、経験年数がものを言う。長く健康に働き続けてもらうため、会社が口を出す必要があると考えた」と説明する。

今年からは社員に運動の実施、健康イベントへの参加などをポイント換算し、たまるとクオカードがもらえる制度も始め、新年度からは笑いを取り入れた健康作りにも取り組むという。

同じく認定を受けた宇都宮市のITサービス業「スキット」では、全社員に歩数計を配り、社内に設置した読み取り機に置くだけで個々の歩数を「見える化」している。年間のランキングも作り、上位者にクオカードを配っている。

同社は学校や自治体に同様の健康測定サービスを提供している。山田義治社長は「サービスを勧める社員がまず元気であることが大事」と話す。「精神面でも健康を」と、2015年から社員のクラブ活動にかかる経費の補助も始め、ランニング部やカラオケ部などが発足したという。

また、全国健康保険協会栃木支部は、県内企業の従業員の健康診断受診率や喫煙者率などをポイント化し、貸借対照表で示した「健康格付型バランスシート」を作成し、利用を勧めている。

同支部によると、利用事業所は15年度が380、16年度は700を超え、増加傾向にある。同支部担当者は「県内企業の意識は確実に高まってきており、今後も取り組みを後押ししたい」としている。

健康経営 政府の「日本再興戦略2016」に基づき、経済産業省が従業員の健康増進に取り組む企業を顕彰する制度を始め、日本健康会議が運営する。2月には大規模法人235社、中小規模法人95社が認定された。中小規模法人の場合、申請して認定されると、低利融資や人材確保支援なども受けられる。

青少年教育に新施設

みかも山に23年度 県教委が基本構想

県教育委員会は3日、2…　みかも山公園内に整備さ…　ネット衣存など多様な…

年自然の家」があるが、老朽化や利用率の低下で、県教委は両施設を廃止する方針だった。06年に再編整備計画を策定したが、財政難で凍結していた。

新施設の完成で、県の青少年教育施設は、指定管理

こも外し 春の訪れ

日光山輪王寺

日光山輪王寺（日光市山内）で13日、春の訪れを告げる「こも外し」が行われた。アカマツを松食い虫から守るため、秋に巻いた稲わらを造園業者が手際よく取り外した。

同寺の国重要文化財「三仏堂」周辺には樹齢60～210年のアカマツが約50本あり、毎年10月、二十四節気の「霜降」にこもを巻き、3月初めの「啓蟄」の約1週間後に外している。

この日は、造園業者が幹に巻かれた幅約50センチのこもを一つずつ取り外した。同寺の鈴木常元教化部長(60)は「こも外しが終わると、長い冬が終わり、やっと春がくると感じる」と話していた。

3歳長女絞殺

弁護側、

昨年1月、「道の駅うつのみや ろまんちっく村」で長女（当時3歳）の首を絞めて死亡させたとして、殺人罪に問われた宇都宮市新里町、無職大房美科被告(38)の裁判員裁判が13日、宇都宮地裁（二宮信吾裁判長）で開かれた。検察側は懲役5年を求刑し、弁護側は執行猶予付き判決を求め

「今も力信じている」

「治療」受け女性証言

糖尿病男児殺害

1型糖尿病を患った宇都宮市の今井駿君(当時7歳)にインスリンを投与させず死亡させたとして、殺人罪に問われた下野市、建設業近藤弘治被告(62)の裁判員裁判が13日、宇都宮地裁(佐藤基裁判長)であった。近藤被告の「治療」を受けた女性など4人への証人尋問が行われた。

目の奥の痛みで「治療」を受けたという女性は、近藤被告や弁護側の質問に対し、「命の恩人。被告が治しているのをほか